

七番	八坂持福寺	八番	野田理證院
九番	寺町藥王寺	十番	寺町成學寺
十一番	寺町順行寺	十二番	寺町極樂寺
十三番	寺町安住寺	十四番	寺町伏見寺
十五番	寺町西方寺	十六番	野町千手院
十七番	町日雨寶院	十八番	川原寶久寺
十九番	三社常光寺	二十番	古道出雲寺
廿一番	小橋寶壽寺	廿二番	卯辰永久寺
廿三番	卯辰賢聖坊	廿四番	卯辰壽經寺
廿五番	卯辰觀音院	廿六番	卯辰源法院
廿七番	泉野永福寺	廿八番	木正教寺
廿九番	馬坂寶相寺	三十番	馬坂集福寺
卅一番	石引波着寺	卅二番	石引岩倉寺
卅三番	石引波着寺		

又森田盛昌の漸得雜記には左の如く組んであるが、是は古いのであらう。	一 番	泉寺玉泉寺	二 番	三間圓教寺
	三 番	泉寺國泰寺	四 番	野田淨安寺
	五 番	寺町眞長寺	六 番	寺町順行寺
	七 番	泉寺翠雲寺	八 番	野町大蓮寺
	九 番	泉寺寶勝寺	十 番	鬼川養智院
	十一 番	泉寺香林寺	十二 番	卯辰醫王院
	十三 番	小野寶幢寺	十四 番	大衆道壽寺
	十五 番	折途眞福院	十六 番	廣岡顯證院
	十七 番	木新持明院	十八 番	堀川大岩寺
	十九 番	小橋寶壽寺	二十 番	川原天道寺
	廿一 番	八坂持福寺	廿二 番	田町乾貞寺
	廿三 番	山上心蓮社	廿四 番	卯辰玄門寺
	廿五 番	卯辰寶泉坊	廿六 番	卯辰福壽院
	廿七 番	下野了願寺	廿八 番	卯辰來教寺
	廿九 番	卯辰最勝寺	三十 番	卯辰壽願寺
	卅一 番	卯辰乘龍寺	卅二 番	卯辰西養寺
	卅三 番	卯辰顯正寺		

輪島住吉寺、卅一横地粉川寺、卅二時國岩倉山、卅三三崎高勝寺であつた。

カンノンダニ 觀音谷 能美郡佛大寺の南方に在る溪谷で、その水梯川に入る。

カンノンドウ 觀音堂 石川郡大野庄に屬する部落。當村の社地は、古へ觀音堂のあつた所で、その頃の本尊と見え、社内に石像の觀音を安置してあつたといふ。

カンノンフルミチマチ 觀音古道町 金澤の舊町名。延寶二年觀音院由來書に、觀音山坂下より大橋までの道筋は、初め道狭く曲つて居たのを、前田光高の時、道幅三間の直道に命ぜられたとある。然れば觀音古道町は其の以前の古道筋で、後の觀音町の裏なる小路を言うたものである。

カンノンマチ 觀音町 金澤の町名。觀音山坂下から淺野川橋爪までの道筋をいふ。初は狭く且曲つた町であつたのを、前田光高の時直道となし、觀音町と稱した。觀音院のある山に向かふ道路であるからの名である。

カンノンヤマ 觀音山 卯辰山の小名で、觀音院のある地であつたから名づけた。昔は愛宕寺の境内で愛宕山というたが、元和二年こゝに觀音院が建てられてから、この名が起つた。

カンノンヤマ 觀音山 能美郡佛大寺の東南方に在る山。高さ四〇二米。地質石英粗面岩。

カンノシヤマクツレ 觀音山崩 元祿二年七月十六日金澤卯辰觀音山が崩れ出て、淺野川の河中に長百間幅六十間許の山を生じた。その後元祿十二年十二月廿三日晝七時半時、『茶磨山續觀音院出崎之後山』が崩れ、淺野川

の中に幅九十間長百四十間の山を生じた爲水を堰き留め、翌日まで下材木町小島屋町に汎濫を生じた。この際川除の町家八軒を突出し、住民三十一人のうち十四人を埋没死に至らしめた。この後者は前回の山崩れよりも上流であるから、茶磨山崩れと書いてある。

カンノシヤマシタマチ 觀音山下町 金澤の舊町名。舊の觀音御歩町の續きで、今は豊國町というてゐる。此の附近は淺野川の河縁で、觀音山の麓である故に名づけたものである。

カンバン 看板 天和二年八月の加賀藩の令に、『町方諸商人諸職人之看板、金銀之酒を押、蒔繪・梨地、金具減金かなもの御停止之事。但本地之看板に墨にて書付可申候。かなものは鐵・銅不苦事候。』とある。

カンビシカイコゼンシヨ 韓非子解詁全書 十五冊。津田鳳卿著。韓非子の正文は明の趙濬之・王昭平の同校本に據り、諸家の校定本を比較し、諸儒の此の書に關する言論を集めたものである。しかし自他の評註が錯雜してゐる爲、可なり物議を招いたのであつた。文化十四年金澤半千館版とあるのは著者の自家出版と見える。

カンヒツ 韓弼 ↓タタラソウエモン 多々良宗右衛門。

カンブツエ 灌佛會 舊四月八日一向宗以外の寺院で灌佛會が行はれた。釋迦誕生の慶讚である。灌佛の爲に用ひた甘茶の煮汁を以て墨を磨り字を習ふ時は、手蹟が上達すると信ぜられ、兒童の之を請ひ受けるものが多かつた。

カンブンキコウ 寛文紀行 一冊。寛文九